

日本の対人関係特徴から見た「迷惑」謝罪に関する一考察

From the prospective of Japanese culture analyze the genuine utterance intention of the "troubled you" apology act

張 婷婷
ZHANG Tingting

Abstract: While the famous diplomatic case that Japanese premier, Tanaka's apology was misunderstood involves many aspects of issues, to some degree, it is novel to analyze the political discourses based on Japan's indigenous language culture theory. The researchers rigorously reason the communication strategy and utterance intention of the core issue, "troubled you", with empirical research methods, combined quantitative statistics and qualitative analysis and then illustrate the covariate relations among language, culture and ideology.

Key Words: apology in Japanese; Japanese culture; communication strategy; utterance intension; cultural motion

はじめに

日本人に庶民首相と呼ばれる田中角栄が発足後3ヵ月足らずで、中国国务院総理周恩来の招請で、1972年9月25日に右翼の暗殺を避けて、住所からヘリコプターに乗り、日本の羽田空港で専用機に乗り換え、北京に到着し、6日間(1972年9月30日まで)の訪中を始めた。9月25日の歓迎晩餐会では田中角栄が登壇し「…この間、我が国が中国国民に多大なご迷惑をおかけしたについて、わたくしはあらためて、深い反省の念を表明するものであります」¹と述べた。田中氏の挨拶が終わると、600人を超える人民大会堂の宴会場で拍手をする人は一人もいなかった。周総理は表情を厳しくし、壇上の田中角栄をちらりと見た。だが、翌日(1972年9月26日14:00)の迎賓館にある釣魚台で田中一行と第2回首脳会談の時、周総理は厳しい口調で「迷惑」という言葉を批判した。それはただうっかり道端で女性のスカートに水を浴びたとき使う言葉であり、日本の軍国主義による侵略戦争で、中国人民に重大な災難をもたらしたについて、一言で迷惑をかけたという表現は我々国民の強い反感を招くのだと指摘した²。これを知った毛沢東主席は、27日午後8:30～9:30に中南海書房で田中角栄氏と会見し、宋代の朱熹が注釈した『楚辞集注』の復刻本を手渡した(『檔案』, 2019/11/3)。『楚辞集注』にある「迷惑」という言葉の語源である意味を借りて、日本側に政治的言葉づかいの問題を警告したものであろう。最後に、田中

¹ 檔案.田中訪華秘[A/OL].<http://tv.sohu.com/20110910/n318942187.shtml>. (2019-11-03)

² 檔案.田中訪華秘[A/OL].<http://tv.sohu.com/20110910/n318942187.shtml>. (2019-11-03)

角榮をはじめとする日本側が中国の意見を受け入れ、双方が発表した公式文書『中华人民共和国政府と日本国政府共同声明』に使った言語表現は「日本側は、過去において日本が戦争を通じてと中国の国民に重大な損害を与えたことについての責任を痛感し、深く反省する」³。結果は喜ばしいものだったが、言葉遣いの問題が大きな波紋を呼んだのは、漢字文化圏で共通して使われていた「迷惑」という言葉がきっかけだった。では、「迷惑」は、日本国民の意識の中でもそれほど軽く、謝罪の分量が足りないのだろうか。それを日本の対人関係の視点から探らないと、簡単に読み解けないことだと思う。

1 先行研究

1.1 「迷惑」に関する解釈

1.1.1 日本語における「迷惑」の意味

以下は『日漢大辞典』（2002年版）と『広辞苑』（第五版）に掲載されている解釈である。

(1) 仏教語。サンスクリット語の *bhrānti* (間違える、迷う) の訳語。面倒なこと、困っている、いやなこと、trouble; annoyance。人に迷惑をかける⁴。

(2) ① どうしてよいか迷うこと。[例] 「皇居に馴れざるが故に心迷惑すー平家物語 (5) ; ② 困り苦しむこと。[例] 「狼咽に大きな骨を立てて迷惑ここにきわまって一天草本伊曾保物語 ; ③ 他人からやっかいな目にあわされて困ること。[例] 「さぞ花松殿は、ご迷惑に思しめさうずる。」「ご迷惑をおかけしました。」⁵

1.1.2 中国語における「迷惑」の意味

次は『現代漢語大辞典』と『楚辞集注』（『楚辞九弁』）に書かれている解釈である。

(1) ① 辨不清是非；摸不着头脑//是非が分からない。見当がつかない。[例] 「周萍迷惑地望着父亲同侍萍//周萍は迷いながら父を見て同侍している。」-曹禺『雷雨』；② 使迷惑//迷わせる。[例] 「这岛子确实有股迷惑人的力量//この島には確かに人を惑わす力がある。」-楊朔『バリの炎』⁶。

(2) 「慷慨绝兮不得，中瞀乱兮迷惑//気前よくしてはいけない、中は乱れて惑う」。この「迷惑」が語源とされています。きっぱりと断ることができず、心が乱れ、迷ってしまいましたという意味。『楚辞・九弁』（1979年版）

上述したように、「迷惑」に関する解釈には中国語と日本語との差異がある。中国の『現代漢語大辞典』と日本の『広辞苑』（第五版）を比べてみると、現代中国語では、人物の表情や状態を描写するだけでなく、主語の主語能動のおよび強い機能を表す使役動詞と組み合わせることもできる。一方、現代日本語では、困っている、悩んでいる、困っているといった心の感情を込めた表現としてよく使われていると理解できる。つまり、漢字での書き方はほぼ同じでも、意味はかなり違うのである。

³ 中华人民共和国政府と日本国政府共同声明 [EB/OL]. 中国外交部, https://www.mfa.gov.cn/web/ziliao_674904/1179_674909/t163708.shtml. 日本国政府と中華人民共和国政府の共同声明 [EB/OL]. 日本外務省网站, http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/china/nc_scimei.html. (2021-03-03)

⁴ 日本讲谈社. 日汉大辞典[M]. 上海: 上海译文出版社. 2002: 2151.

⁵ 新村出編. 広辞苑 (第七版) [M]. 東京: 岩波書店. 2002: 2878.

⁶ 现代汉语大词典编委会. 现代汉语大词典[M]. 上海: 上海辞书出版社. 2010: 897.

1.2 謝罪表現に関する先行研究

国立情報学研究所が運営するインターネット学術情報プラットフォーム cinii に掲載されている日本関連学術論文を検索して調べたところ、謝罪語の分類研究の初期段階にある学者たちは(佐久間勝彦, 1983; 中田智子, 1989; 熊谷智子, 1993; 池田理恵子, 1993; 三宅和子, 1993; 小川治子, 1993 など) 謝罪語をただ、規則性のある定型表現と規則性のない非定型表現に大別している。二十一世紀初頭には、言語主体に関する研究の深化と領域を超えた研究理念の普及に伴い、新世代の研究者たちは(山岡政紀 李奇楠, 2007; 山岡政紀 牧原功 小野正樹, 2010 など)、それに基づいて、さらに下位階層の分類区分を展開している。表1に示すように、山岡・李(2007)は『謝罪の日中対照研究』(2007:224-236)の中では現代日本語の定型表現をより全面的に整理し、その後の関連研究にカテゴリの分類や定義づける根拠を提供している。

	類型	日本語	中国語
1	遂行文=系(直接型)	謝る、謝罪する、詫げる、陳謝する	道歉、賠罪、賠礼、謝罪、請罪
2	命令文=系 (許しを求める型)	ごめんなさい、お許ください、堪忍 して、あしからず	请原谅、原谅我
3	評価文=系 (過ちを認める型)	すみません、私が悪い、 <u>迷惑をかけた</u> 、 失礼しました	打扰了、对不起、是我的错、添 麻烦了
4	表出文=系 (心情を告白する型)	申し訳ない、恐縮だ、遺憾だ	抱歉、不好意思

表1 謝罪表現の類型と日中対照

注：山岡・李(2007)は『謝罪の日中対照研究』(2007:224)より

この表からもわかるように、「迷惑をかける」は「過を認めるタイプ」に分類され、相手に自分の過ちを認める謝罪の仕方、反省や後悔の気持ちを伝えている。

一方研究者は文献を整理して分析したところ、先行研究では、謝罪に関するデータの選択と設定において明らかな限界があった。多くの研究には謝罪言葉の一部を切り取っただけで、完全な文脈は明記されない。さらに深刻な問題は、量が限られていて、一般語用の範囲をカバーすることができず、当然、謝罪に関わる一般語用のストラテジーを表すこともできず、議論の信頼性に深刻な影響を与えていることである。

2 本研究の位置づけと研究方法

2.1 研究問題

本研究では、表1の分類方法を参照してコーパス・リソースを用いて各表現類型を選別することで、客観的なデータを得るだけでなく、様々な表現が存在するテキストを復元することで、文脈とコンテキストの背景を組み合わせ、それぞれのストラテジータイプの真意を推測できると考えている。本研究では、それに基づいて、まず、「迷惑」という言葉が存在する過ちを認めるタイプに還元し、他の3つのタイプの発話表現との比較を通じて、当タイプの発話的特徴をまとめた。それから、その背後にある文化的動因を

探り、政治的コミュニケーションの文脈におけるその言葉の意図を考察する。一方、関連する先行研究の文献を比較分析した結果、研究者は、同じ言語(日本語)であっても、学校、職場、家庭などの日常的なコミュニケーションと国家内務や外交を含む政治的なコミュニケーション活動では、異なるコンテキストの下で、発話の意図とそのストラテジーにある程度の差があることを発見した。もちろん、迷惑という言葉がある過ちを認めるタイプも例外ではないだろう。そこで、本研究では、日常的なコミュニケーションの文脈と政治的なコミュニケーションの文脈に基づいて、それぞれ「迷惑」に関する謝罪表現を整理し、その発話的特徴をまとめ、日本文化の視点から比較分析の方法を用いて、その意図を考察してみたい。

2.2 検索対象と研究方法

本研究では、まず、現実のコミュニケーションの場で自然に発生する謝罪に関わる発話表現を言語資料として、上記の問題を検討する。検索対象は1994年から2019年の間に日本で起こった日常的なコミュニケーションと政治的なコミュニケーションにおける謝罪表現である。使用されるコーパスは主に次の二種類となる。一つは日本国立国語研究所の開発したBCCWJ(『現代日本語書き言葉均衡コーパス』2008版)、CSJ(『日本語話し言葉コーパス』2008版)と名古屋大学が開発した『名大会話コーパス』2008版。もう一つは、日本の「首相官邸」や「外務省」の検索システムに掲載された歴代首相や外相などのインタビューや演説をもとにした政治・外交談話コーパス(筆者自作の小型コーパス)である。データ収集では、確実性を保つため、コーパスによって謝罪表現を抽出した後、手作業でテキストを読み取り、再確認をするようにした。

本研究では表1にまとめた4つの表現を参照して、その中の「謝る・謝罪する…」および語尾活用型など日本語の謝罪表現を主な検索対象とし、検索によって出てきた関連テキスト(検索対象との共通文脈に注目)をもとに、発話ストラテジーの機能とその背後にある意図を、日常的なコミュニケーションと政治的なコミュニケーションという2つのコンテキストから考察する。要するに、前後文脈、つまりテキスト単位での分析法では、従来の語源や語彙、文法などにだけ注目していた研究方法よりも、はるかに詳細である。すべての情報を取り入れることができ、研究結果の真実性や客観性を確保することができる。

2.3 分析結果

2.3.1 日常コミュニケーションにおける日本語の謝罪表現の使用状況

コーパス 類型	直接型	許しを求める型	過ちを認める型	心情を告白する型
現代日本語書き言葉均衡コーパス (日常生活に関する欄) 584,293 条	0.0036	0.0023	0.0092	0.0025
日本語話し言葉コーパス 501,955 条	0.0004	0.0665	0.0818	0.0556
名大会話コーパス 1,131,89 条	0.0003	0.3472	0.1653	0.0336

总计	0.0043	0.4160	0.2563	0.0917
----	--------	--------	--------	--------

表2 日常的コミュニケーションコーパスにおける定型謝罪表現の使用状況統計表（単位：%）

表2が表示されたデータは、現代日本語の定型謝罪表現を日本国内で広く用いている日常発話行為に関わる三大コーパスでの語用例に基づいて検索した結果である。そのうち、許しを求める型は、3種のコーパス（計1199437件）の0.4160%を占め、割合が最も高かった。続いては「迷惑」が属する過ちを認める型が、3種のコーパス（計11万9437件）の0.2563%を占めた。割合が最も低かったのは直接型であり、3種のコーパス（計1199437件）の0.0043%にすぎなかった。

2.3.2 政治的コミュニケーションにおける日本語の謝罪表現の使用状況

コーパス 類型	直接型	許しを求める型	過ちを認める型	心情を告白する型
国会会議録—297,122 条	0.0118	0.0923	0.0825	0.1357
マスコミ（日本政界の外交・外事活動に関する報道）—718,389 条	0.0148	0.0040	0.0071	0.0036
第81～98代内閣総理大臣と内閣官房長官の外交談話・演説—1,631 条	5.2728	1.1649	3.4335	12.8755
总计	5.2994	1.2612	3.5231	13.0148

表3 政治的コミュニケーションコーパスにおける定型謝罪表現の使用状況統計表（単位：%）

表3の表示されたデータは、日本の内務や外交に関わる発話における現代日本語の定型謝罪表現を検索し、統計した結果である。このうち最も使用頻度が高いのは心情を告白する型で、類型語別使用頻度総数（計10万17142件）の13.0148%を占めた。次に直接型は、外交コーパス（計1631本）を中心としており、5.2728%を占めている。最も低かったのは許しを求める型で、各コーパス（計10万17142条）の1.2612%に過ぎなかった。「迷惑」が含まれている過ちを認める型は許しを求める型より2ポイント高いだけで、使用率も低いようである。

2.3.3 用例分析

2.3.3.1 日常コミュニケーションにおける「迷惑」の発話特徴

多くの過ちを認める型の実例から見ると、「迷惑」に合わせた前置言葉の中で行為の対象（あやまる人）を示す格助詞「に」及び「に」の後に副助詞「も」をつけて語気を強めるのは最も頻度の高い合わせ言葉である。一方、後付けとして、よく使われるのは「しまう、ちゃう、申し訳ない気持ちでいっぱい」など恥ずかしくて心が痛む表現である。例えば、例1:

今回の事故っていうのは相手の家族にも迷惑掛けましたし、また自分の親にも凄い迷惑を掛けたことに関してはま本当に申し訳ないっていう気持ちでいっぱいです⁷。

⁷ 日本語話し言葉コーパス CSJ[A/OL].<https://chunagon.ninjal.ac.jp/csj/search>. 样本ID: S05M0797. (2020-08-28.)

まとめていうと、謝罪というメッセージ交渉の過程で前置組み合わせ「に」、「にも」は、聞き手に謝罪の相手を明確にしてもらうための基本概念 (LOGOS) に関わる機能を十分に果たしている。一方、後付けにおけるモダリティ表現「～っていう気持ちでいっぱいです」は、話し手と聞き手の間で共感を実現する対人コミュニケーション (PATHOS) 機能を体現している。

2.3.3.2 政治的コミュニケーションにおける「迷惑」の発話特徴

例 2 と例 3 に示すように「迷惑」を検索語に外交コーパスで検索した結果から見ると、行働の対象を表す格助詞「に」は前置詞としてよく使われている。その次は敬語接頭辞の「ご(御)」である。そして、「に」と「ご(御)」と組み合わせで表すのもよく見られる。それに対して、動詞「かける」の謙譲表現「おかけいたしました」或は「おかけしている」が修飾語として体言「こと」を修飾するのは後置表現として出現頻度が最も高い。そして、特に強調しなければならないことがある。それは「迷惑」と「～をおかけいたしました/おかけしている+体言」との組み合わせには、さらに「～に」、「ご(御)」と合わせることもよくあるという発話現象である。つまり、「～に+ご+迷惑+をおかけいたしました/おかけしている+体言」は日本の政治的コミュニケーションにおける謝罪表現の決まり文句の一つであるということであろう。

例 2:

年金記録問題については、国民の皆様にご迷惑をおかけしていることを、改めて深くお詫び申し上げます⁸。

例 3:

事故発生以来、福島の皆様はもちろんのこと、全ての国民の皆様、そして、世界中の皆様に多大なご心配をお掛けし、大変ご迷惑をお掛けをいたしました。申し訳ございませんでした⁹。

以上をまとめると、日常的なコミュニケーションコンテキストと政治的なコミュニケーションのコンテキストにおける「迷惑」に関する謝罪表現は次の 4 つの点で共通している。(1) 推移性 (transitivity) システムから見ると、いずれも加害行為に関わるプロセスと、謝罪する側 (話し手) の礼儀意識を強調する心理的プロセスで謝罪の意味を表していること。(2) ボイス (voice) システムから見ると、話し手が自発的に誤りを認めるという意味機能は、主働態で表現されるのが一般的であること。(3) 論理 (logical function) 的機能 (論理的構造関係と論理的意味関係を含む) の観点から見ると、はめ込み文と並列文構造は、拡張式 (詳述、伸ばして説明する、強調して述べるなど) の論理的意味機能を表す表現法であること。(4) モダリティシステムから見ると、例 1、例 3 のように、「凄い」、「大変化」などの前置詞は加害行為の程度を強調することで話し手の礼儀意識を際立たせること。一方、両者の相違は言語の演じる役割に表れている。例 2 と例 3 が示したように日常的なコミュニケーションで心情を告白するのと違って、「迷惑」は政治的な文脈では、よく「おかけしてい

⁸ 第百六十九回国会における福田内閣総理大臣発言[A/OL]. <https://kokkai.ndl.go.jp/> (2008-03-23)

⁹ 野田内閣総理大臣記者会見[A/OL]. <https://www.kantei.go.jp/> (2020-03-23)

る」「おかけ이었습니다」という言い方によって、話し手(謝罪する側)が謙虚で慎重な謝罪態度で加害行為を認めることを表す。それを通して、聞き手に礼儀を重んじる対等的な相互行為者の役割を示し、あやまりの受ける側を含む聞き手全体の普遍的な承認を得るというコミュニケーションの目標を達成するためであろう。

つまり、「迷惑」という謝罪表現は、罪行に対する認知や判断だけでなく、その人の感情や態度、さらには立場の構築や確立にもつながる。

2.4 考察

2.4.1 発話行為の差異について



図1 日常コミュニケーションにおける謝罪表現の分布図 図2 政治的コミュニケーションにおける謝罪表現の分布図

図1と図2を参照して、現代日本語の定型謝罪表現は日常的な文脈と政治的な文脈での語用状況を見ると、その差異が明らかである。(1) 日常的なコミュニケーション文脈で最も使用頻度の高い許しを求める型は、政治的なコミュニケーション文脈ではむしろ使用頻度の低い表現になっている。一方、比較的に使用頻度の低い心情を告白する型は、政治的なコミュニケーション文脈で使用頻度の最も高い謝罪表現である。(2) 日常的なコミュニケーション文脈で最も使用率の低い直接型は、政治的な文脈では、許しを求める型や過ちを認める型よりも明らかに使用率が高い。(3) 「迷惑」を含む過ちを認める型の使用率は日常の場合では順序から2位を占めているが、政治の場合ではそれと対照的に下から2位となっている。

2.4.2 動因分析

日本語研究者(山本とも子, 2003; 熊谷智子, 2011 ほか)は、ポライトネス理論観点 (G. Leech, 1983; Brown & Levinson, 1987) およびメンツ視点 (Janet Holmes, 1990; Anna Trosborg, 1995) の下で日本語の謝罪に関わる発話行為を研究対象とし、分析を深めた上で、日本語の特徴を際立たせる新たな理念を提案した。例えば山本とも子(2003)は、西洋のポライトネスシステムにおけるポジティブアプローチとネガティブアプローチに比べ、日本人が一般的に選んでいる発話表現は、実は日本の「配慮文化」意識に由来する「丁寧さストラテジー」であると強調している。又、熊谷智子(2011)は「配慮文化」にもとづき、話者が自分の積極的なメンツを再確立するプロセスを分析した後、日常交際の中で謝罪に関する発話行為が発揮したメンツ修復機能は社会的人間関係に関わる機能の一つだが、しかし、日本人は伝統的な「配慮文化」の影響を強く受けているため、そのメンツ修復の過程で「相互扶助」という特徴が表れてきたと指摘した。つまり、話し手が聞き手の消極的メンツを救うために自ら自分のメンツを潰した場合には、聞き手の協力を得て、損をしたメンツが

再び戻され、お互いに損をしない平衡状態になるのが一般的である。換言すれば、謝罪の発話行為は確かに話し手のメンツ修復をメインとするが、しかし、人間関係のバランスを保つために、日本語を母語とする人は、よく自分のメンツを潰すような行動をとっている。要するに、それは見直しすぎて最初のメンツ脅迫行為（FTA）が二次的メンツ脅迫につながったということであろう。則ち、聞き手から同情や配慮を得られるように話すことで脅迫者から被脅迫者のアイデンティティに変わって聞き手の自発的な協力を得て、お互いのメンツにかかわる人間関係のバランスを取り戻す。一方、郭碧蘭(2013)は、日常的な対人関係における日本語の謝罪談話の特徴が、思いやりのある「他者先行型」であることを述べた時、話輪に謝罪者の「相槌」は、相手への「配慮・思いやり」など日本文化の特徴を反映しているとも考えられると指摘している。則ち、謝る側が相手のメンツを救うために自分のメンツを脅かしすぎていることに気づき、受ける側は謝る側のメンツに関わるバランスをとるように協力するのが、一種の「丁寧さストラテジー」である。そのうち、「配慮文化」とは、自己と他者の人間関係から見て、非対立的な他者存在意識であり、日本の文化心理に由来する集団（うち）意識の範疇であると解釈できる。すなわち、自己と他者の内（うち）と外（そと）の関係を一定の場の範囲の中で規定する（和辻, 1935）ということであろう。そのメカニズムは、日本文化学者の米山俊直(1976)によって補完され、次の図5のように地縁・血縁が集団帰属意識と関連した文化心理の枠組みも構築されている。

無←血縁/地縁	血縁/地縁→有	集団の限定性（小/無）
世間・世（よ）	同胞	↑
仲間	身内	↓ 集団の限定性（大）

図3 日本の対人関係の枠組み（注：米山俊直『日本人の仲間意識』1976:74）

この対人関係の枠組み(図3を参照に)からもわかるように、「同胞」と「身内」はいずれも縁(血縁や地縁)の土台を持っているが、「身内」に比べて「同胞」の集団帰属意識は弱い。一方、「世間・世」と「仲間」は、いずれも縁(血縁や地縁)的な基盤はないが、「仲間」の集団帰属意識は、普遍的な社会関係システムである「世間・世」よりはるかに高い。

日本の民族文化心理に基づいて、このような対人関係の枠組みを深く探ってみると、「内」というイデオロギーに関わる「甘え」（土居健郎, 2004）が集団帰属意識の強い「身内」の人間関係システムの基盤である。しかし、「同胞」という集団への帰属意識が相対的に弱い地縁関係システムを維持するには「内」と「外」との相対的な関係を重んじた「察し」（森田良行, 1999）が働いている。一方、帰属意識が相対的に強いパートナー関係の「仲間」も同じように「察し」を基盤としている。両者の相違は次のように表れている。まず「同胞」はタテ関係を重視している（中根千枝, 1967）。一方、「仲間」は義理人情（浜口恵俊, 1982）という融合的な発想を重視している；最後に、「世間・世」という集団帰属意識の最も弱い社会関係システムは、「外」に関わる「恥を知る」（R.Benedict, 1946; 森貞彦, 2002）という心理によって維持されている。

以上のような発話行為に関する文化心理的特徴は、言語学者たちが言及した「丁寧さストラテジー」、「相互扶助型」、「他者先導型」などの謝罪表現に表れた発話ストラテジーに隠された理由であろう。本研究が注目している政治的コミュニケーションにおける謝罪表現の特徴もそれとの関わりがある(図4を参照)。(1)直接型は、「外」というイデオロギーをベースにした「世間・世」という帰属意識の最も弱い社会関係システムを現し、話し手の「恥」意識を強調している。(2)心情を告白する型は、「内」と「外」との相対的な「間」関係を意識した協調性のある表現、つまり、連帯性の関係システムをベースにした謝罪表現である。(3)許しを求める型は集団帰属意識の強い「身内」の人間関係システムに属し、その表現には「内」というイデオロギーによる「甘え」という心理がはっきりと表れている。(4)「迷惑」が属する過ちを認める型は、タテ関係を重視する人間関係システムの特徴を表した謝罪表現である。

	謝罪表現←	無←血縁/地縁	血縁/地縁→有	→謝罪表現
集団の限定性(小/無) ↑	遂行文=系 (直接型)	←世間・世(よ)	同胞→	評価文=系 (過ちを認める型)
↓ 集団の限定性(大)	表出文=系 (心情を告白する型)	←仲間	身内→	命令文=系 (許しを求める型)

図4 (定型的) 謝罪表現と日本の対人関係との相関図

3. おわりに

以上、謝罪発話表現に関する日本の対人関係特徴とその内部にある日本の民族文化心理を分析した。要約すると、(1)日常的なコミュニケーションで最も多用された許しを求める型は、家族関係の中で、強い依存心理を反映した(甘え)表現であるため、公式的な場、特に政治(外交)交際では用いられていない。逆に心情を告白する型は、パートナーシップをベースにした謝罪表現であり、話しての協調性を表現しているため、日本の政治的コミュニケーションで最も使用頻度の高い謝罪表現となっている。(2)「直接型」は、話し手の恥意識を十分に表し、日本社会の一般的な謝罪認識に合致し、政治家としてのアイデンティティの実現や対外発信力の構築など政治的目標を達成しやすいため、許しを求める型や過ちを認める型に比べ、政治的交際での使用頻度はそれらほど低くないようである。(3)「迷惑」を含む過ちを認める型は、「内」という意識に基づき、集団内での序列関係を強調した謝罪表現であり、言い換えれば、信頼の証として内部の人を説得するには十分である。しかし、先に述べたように、日本の対人関係の「内」と「外」との特徴から見るとわかるように、本音は身内者にしか打ち明けないのが一般的であり、よそ行きの言葉こそが慣用的な外交辞令である。言い換えれば、日本人は人との付き合いにおいて、本音を隠し、建前や形式的な社交辞令、あるいは本心に反した言葉を多用し、建前で衝突を回避し、安全な距離を保っている。これは、日本語の謝罪表現に関する発話行為の特徴を裏付けているだけでなく、田中角栄元首相が「迷惑」を使って真剣に謝罪しようとした本音も証明している。しかし、その「ご迷惑をおかけした」の一言はやはり不満を呼び、物足りないとい

うレットルを貼られたという本の原因は序列関係で上の立場を強調したからであろう。つまり、日本の対人関係特徴から見ると、「迷惑」謝罪は謙虚で、聞き手の信頼を得ようとした真剣な謝り方である一方、上下というタテ関係を表す対話形式でもあろう。要するに、それは話者が責任者としての身分を強調し、主導権を握る政治的意図が隠された言葉であると過言ではないだろう。

参考文献：

朱熹. 楚辞集注・卷六九辯[M]. 上海：上海古籍出版社，1979.

ボイクマン総子，宇佐美洋. 友人間での謝罪時に用いられる語用論の方策—日本語母語話者と中国語母語話者の比較—[J]. 語用論研究, 2005(7).

三宅和子. 「詫び」以外で使われる詫び表現—その多用化の実態とウチ・ソト・ヨソの関係—[J]. 日本語教育, 1993(82).

土居健郎. 甘えの構造[M]. 東京：弘文堂，2004.

小川治子. すみませんの社会言語学的考察[J]. 言語文化と日本語教育，1993(6).

山本もと子. 感謝の謝罪表現「すみません」 — 「すみません」が感謝と謝罪の両方の意味を持つわけ[J]. 信州大学留学生センター紀要，2003(4).

山岡政紀，李奇楠. 謝罪の日中対照研究[A]//趙華敏 楊華ほか. 日本語と中国語と：その体系と運用：村木新次郎教授還暦記念論集[C]. 北京：学苑出版社，2007.

山岡政紀，牧原功，小野正樹. コミュニケーションと配慮表現. 謝罪における配慮表現. 日本語語用論入門[M]. 東京：明治書院, 2010.

中田智子. 発話行為としての陳謝と感謝—日英比較—[J]. 日本語教育，1989(68).

中根千枝. タテ社会の人間関係[M]. 東京：講談社現代新書，1967.

米山俊直. 日本人の仲間意識[M]. 東京：講談社，1976.

池田理恵子. 謝罪の対照研究：日米対照研究—face という視点からの一考察[J]. 日本語学，1993(12).

佐久間勝彦. 感謝と詫び. 水谷編集. 講座日本語の表現(3):話し言葉の表現[M]. 東京：筑摩書房，1983.

和辻哲郎. 風土[M]. 東京：岩波書店，1935.

郭碧蘭. ポライトネスの観点からみた謝罪行為の談話構造—日本人大学生同士によるロールプレイ・データを通して—[A]//東吳大學創系 40 週年紀念 2012 年日語教學國際會議大會手冊，2012.

浜口恵俊. 間人主義の社会に本[M]. 東京：東洋経済新報社，1982.

森田良行. 日本人の発想—日本語の表現[M]. 東京：中央公論，1999.

森貞彦. 「菊と刀」再発見[M]. 東京：東京図書出版社，2002.

熊谷智子. 日本語の「謝罪」をめぐるフェイスワーク[J]. 言語行動の対照研究から社会言語学・言語行動研究・談話分析，2011.

熊谷智子. 研究対象としての謝罪—いくつかの切り口について—[J]. 日本語学，1993(12).